

ほやほや 速報



第55回 全国公立小中学校事務研究大会 福井大会開催!

大会テーマ：地域とともにある学校をつくるリーダーシップと組織開発
ーみんながリーダー! 子どもたちの「福」があふれる新時代の組織づくりー

実行委員長あいさつ

第 55 回全国公立小中学校事務研究大会
福井大会実行委員長 廣野るみ子



「笑顔」と「福」があふれる新時代に向かって

ようこそ!全国大会福井大会に御参加いただき、ありがとうございます。

福井大会は4年ぶりとなる参集での開催となりました。全国各地からたくさんの方に福井にお越しいただき、心より感謝いたします。また、参集に加えて、オンラインにおいても、たくさんの方に御参加いただき、大変うれしく思っております。画面越しにはなりますが、現地での雰囲気を感じながら参加していただけると幸いです。

福井大会は、全国大会としてははじめてのハイブリッド開催ということで、実行委員会としてもチャレンジの大会です。本部、分科会提案支部の皆様と協力して、準備を進めて参りました。今までとは少し違う研究提案や大会運営も楽しんでいただきたいと思います。

令和2年度より3年間、新型コロナウイルス感染症拡大により、学校現場は予測もしていなかった事態を経験しました。また、少子高齢化、人口減少や、度重なる自然災害など、私たちの生活は予測困難な時代になっています。ICT化は急速に進み、学校教育において求められるものも大きく変化しています。そのようななか、新たな学校に向けた持続可能な組織の在り方、その組織の目標達成に向けたリーダーシップの在り方についてたくさんの議論が沸き起こることを期待しています。

しかし、どんなに時代が変わっても、環境が変わっても、私たちが目指すことは子どもたちの「笑顔」「福(しあわせ)」です。

「全47都道府県幸福度ランキング」総合1位であるこの福井において、子どもたちの「笑顔」「福」があふれる学校を、そしてだれもがリーダーシップをとりながら新たな時代を創造していける組織を目指し、未来に向けた前向きな大会にしたいと思います。

また、第9次研究中期計画の最終年次となる今大会は、第10次研究中期計画へつなげる大会でもあります。いろいろな意味で、前へ進み出す大会となりますよう、皆様の積極的な御参加をお願いいたします。

大会テーマ「地域とともにある学校をつくるリーダーシップと組織開発ーみんながリーダー!子どもたちの『福』があふれる新時代の組織づくりー」の下、福井大会を「笑顔」と「福」のあふれる大会にしましょう!



全体研究会Ⅰ

多様性を認め包摂性の高い社会の実現に向けて、その創り手となる子どもの生きる力をはぐくむために、学校・家庭・地域が一体となって豊かな学びの場を協創する地域とともにある学校づくりが求められています。研究開発部では、地域とともにある学校の組織開発や推進におけるリーダーシップの重要性、そして事務職員・共同学校事務室の役割とこれからの力量形成について追究しました。

さて、皆さんが所属する学校でもすでに多様な人材が子どもにかかわり、教育課程に基づいて活動を行っているかと思いますが、組織開発やリーダーシップと聞いて学校の何をどのように変えていくことなのか、だれがどういった状況で先陣を切るのかなど具体的なイメージをもたれているのでしょうか。本部研究提案では、ともすれば曖昧に捉えがちなキーワードの定義や有効性を改めて確認した上で、学校全体を俯瞰して経営資源のマネジメントを担うからこそできる戦略的な協働体制の構築と、それにより組織文化をポジティブなものへと変革する事務職員の姿、共同学校事務室の在り方を描きます。

福井県の鯖江市は、世界三大めがね産地として日本製めがねフレームの約 95 パーセント以上を生産しています。全体研究会Ⅰでは、鯖江のめがねのように学校の組織開発やリーダーシップの発揮における重要なポイントに皆さんの焦点を合わせたり、様々な角度から大会テーマを捉えたりすることで2日目の分科会での理解が深まるように提案を行います。

全体研究会Ⅱ(シンポジウム)

職務が“つかさどる”となったり、共同学校事務室が制度化されたりと私たち事務職員への期待は大きくなっています。しかし、私たちはそのことを本当に自覚できているのでしょうか。学校経営スタッフの一員として、今大会のテーマである“組織開発”を自らの役割と認識しているのでしょうか。

このシンポジウムでは改めて事務職員につかさどる職として校務運営参画が求められる背景や根拠について意見を交換し、その職責を果たすために私たちはどのように変容していくことが望ましいのかを参会者の皆様と考えていきます。

シンポジストとして外部からは、教職員支援機構・理事長の荒瀬克己様と新潟大学大学院・教授の雲尾周様をお迎えします。

荒瀬様は“堀川の奇跡”でもお名前を御存知の方も多いでしょう。様々な御経験からリーダーシップの重要性や組織開発の必要性をお話しいたします。また、第12期中央教育審議会の会長というお立場から見る事務職員の可能性もお伺いできればと考えています。

雲尾様はこれまでも多くの事務職員を御指導され、様々な実践を促してくださっています。その多くの見聞を基に、リーダーの役割、資質・能力、その育成方法などを中心にお話をいただきます。

石田研究開発部長は本会の調査を基に現状を示すとともに、積み上げた研究から展望を語り、お二人のお話の基盤をつくります。

全国研究大会の締めくくりとして、三人のお言葉を紡ぐことで、学校事務の未来が見えてくるものと考えます。



分科会 紹介

本部研究分科会

二つの柱を設定して討議を行います。一つ目は学校におけるリーダーシップと組織開発の在り方です。子どもの学びにかかわる一人一人の意識や行動を変え、学校の組織文化をポジティブなものへと変革する上で、多様な人材がリーダーシップを発揮する必要性について考えます。二つ目は組織開発における事務職員・共同学校事務室の役割です。事務職員・共同学校事務室がその専門性を生かして戦略的に当事者のリーダーシップを促すとともに、人と人、人と組織、そして組織と組織とのより良い関係のマネジメントにより持続可能な協働を推進し、学校力を高めていく姿について皆さんと考えます。

第1分科会（東海プロジェクト）

東海プロジェクトでは、現代の組織が存続し、維持発展させていくには何が必要なのかを検討しました。人々の価値観や働き方の多様性、リーダー不足、働き方改革、これらの背景をもった新しい時代の組織がどうあるべきなのか。組織開発にその解決策を求め、リーダーの視点から組織開発を提案します。

第2分科会（奈良支部）

会員一人一人が「ささえる・つなぐ・ひらく」を合言葉に、自分のできることを見つけ、新たな一歩を踏み出すことが大切だと考えます。そのためには、まずは「知ること」、そして「考えること」「発信すること」から始め、個々のステージに応じて、どのように学校運営に参画していくか、リーダーシップを発揮していくか、組織マネジメントしていくか、「まずは、できることからやってみよう！！」

第3分科会（新潟支部）

リーダーの存在目的や存在意義、そして組織の在り方について、新潟らしさを出しながらも、提案者、指導者、そして参加者の皆様と本音で語り合い、また次の行動につなげていけるような分科会にしたいと考えております。意見交流を通して、子どもも大人もいきいきと活躍する「楽しい学校」「楽しい地域」づくりを共に考えましょう。

第4分科会（富山支部）

学校唯一の行政職として強みを生かせる財務のなかでも、実務を進める上で教員と連携が必要な、学校徴収金事務においてリーダーシップを発揮することで組織開発を実践しようと挑戦した事例を提案し、今後これをさらに広げた取組を追究していきたいと考えます。

第5分科会（石川支部）

「事務をつかさどる」事務職員としてリーダーシップを発揮し、学校のスタッフとして生き生きと働くことで、子どもたちの健やかな成長を支援していきます。自由な発想で学校事務をデザインし、実践を重ね、実践を共有し、実践から学びます。参会の皆様とともに討議を重ね、課題解決に結びつけ、成長を実感したいと考えています。

第6分科会（福井支部）

事務職員の行動や働きかけにより学校組織に好循環が生み出され、「協働する組織文化」の醸成を促すことができると考えます。それらにより、変化をポジティブに捉え、しなやかに対応し、進化しながら持続する学校組織体制を構築することができるでしょう。これからの学校組織づくりを担う学校事務の未来について語り合しましょう。



各都道府県 参加者数情報



1406 名が全国から集っています。



福井大会速報「ほやほや」について

- すべて Web 配信で行います。大会 Web ページ「大会速報」に掲載します。
- 大会速報はすべての方に公開しています。
- 開会式、文部科学省行政説明、全体研究会 I …と開催順に配信していく予定です。

【速報タイトル「ほやほや」とは】

研究大会の様子を、できたて「ほやほや」の状態でお届けしたいという思いと、「そうそう」「そうです」と相づちを打つときの福井の方言「ほやほや」に掛けました。2日間、研究提案や参加者の皆さんの声に、あちらこちらでたくさんの「ほやほや」が聞ける大会でありますように、という願いを込めて・・・。

… 皆様に「ほやほや」と言っていただけの情報をお届けできるよう努めてまいります …

